

『藤農便り』 第 10 号

宮本茶園 宮本 透（自然文化誌研究会）

6 月 20 日に雇用保険の失業給付が終了、児童クラブ勤務以外のすべての時間が畑仕事に使えるようになりました。昨年の夏は会社勤めで掃除・洗濯・事務仕事に追われ、農作業に専念できなかったのですが、この夏は農民として茶と穀物栽培に全力で取り組む充実した日々を過ごしています。敗戦 72 年目の長崎原爆の日、悲しい別れがありました。8 月 9 日、三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長の北原鮎治さんが亡くなりました。享年 95 歳、半世紀を超える三里塚農民の成田空港廃港の闘いの先頭にはいつも北原さんがいた事を思い出します。モロトリアムの 20 代、三里塚の大地で国家権力の横暴に絶対妥協せず体を張って抵抗する意味を学んだ事は、私の労働者・農民人生の礎となりました。共謀罪が成立し改憲・朝鮮侵略戦争が現実になろうとしている昨今、北原さんが訴え続けた戦争絶対反対の思いを受け継ぎたいと思います。

・茶仕事

5 月に収穫した茶葉は、県農協茶業センターへの出荷と自家用荒茶に加工しました。新規就農者の私は県農業技術センター職員巡回指導で、木村普及員より栽培技術や茶園経営などを学んでいます。これまで津久井地区の茶は茶業センター出荷以外に自家用荒茶販売のみで、製品加工はほとんどありませんでした。私は木村普及員のアドバイスで、自家用荒茶の煎茶加工に挑戦することにしました。木村普及員から紹介された加工委託業者は秦野市の高梨茶園、3 年前私が茶農家を目指すきっかけとなった秦野市公民館手揉み茶講習会講師の高梨晃さんでした。高梨さんに加工委託した荒茶は、父上の孝さんから「努力の跡がうかがえる」と評価してもらいました。1 月からずっと刈ったススキや竹チップを急斜面の茶畑に運び、畝間に敷き詰めてきた事が報われたようで嬉しくなりました。孝さんは「畑を歩いた地下足袋の足跡の数だけ味が美味しくなる」と話され、毎日畑に出て管理する事の大切さを改めて確認しました。

高梨茶園の 2 番茶加工が終わった 7 月 28 日、荒茶の製品加工が行われ、作業に立ち合わせていただきました。清潔な加工場で荒茶はていねいに篩にかけられ、茎や粉が選別されます。大きな葉は切断機で小さく均一に形が整えられ、唐箕で碎葉を除き、最後に火入れ機で仕上げます。私の拙い文章ではこのような表現しかできませんが、晃さんの数時間にわたる作業工程を目の当りにすると非常に熟練した技術が必要なことがわかります。きれいに仕上がった煎茶をさっそく試飲させてもらいましたが、荒茶の青臭みが抜けた爽やかな香りと柔らかな味に我ながら感動しました。製品は品質保持できるように窒素充てんした包装で、消費者の皆さんにお届けします。試飲用パックもたくさん作りましたので、藤野においての際にお声掛けいただければ差し上げます。新茶の季節は過ぎてしまいましたが、たくさんの方に無農薬・有機栽培の佐野川煎茶をご賞味いただければ幸いです。

6 月 6 日、藤野茶業部の整枝講習会が上岩の茶畑で開催され木村普及員から 2 人用摘採機や整枝機の操作法や機械に適した樹形作りを教わりました。梅雨の晴れ間に茶業部から紹介いただいたヘルパーの方といっしょに整枝作業を行いました。きれいに管理された茶畑は景観的にも気持ち良いものです。除草・施肥とこまめに畑に通い、地下足袋の足跡を増やすよう精進しています。



高梨茶園



荒茶の篩い分け



火入れ



手前が荒茶、奥が完成した煎茶



製枝後の上岩畑



製枝後の和田畑

・津久井在来大豆栽培

津久井地区で古くから栽培され、大粒で甘くコクのある津久井在来大豆。煮豆や味噌等、食生活には欠かせないものですが、都市近郊農業に適した経済性の高い作物が栽培されるようになり幻の大豆と言われるほど生産量が減ってしまいました。2000 年頃から津久井在来大豆の良さが見直され、栽培に取り組む農家や市民グループ・行政・農協等の普及活動もあり近年作付面積や生産量が増えています。つくいやさいリーダーの石山草子さんは、相模湖地区で新規就農以来ずっと津久井在来大豆の栽培・加工に取り組んでいます。今年は石山さんの呼びかけでつくいやさいの仲間もそれぞれの畑で大豆栽培を始めました。

旧相模湖町千木良が発祥の津久井在来大豆は晩生種で、6 月下旬～7 月上旬に播種します。6 月 24・25 日、草子農園サポーターや明治大農学部学生ボランティアの協力で内郷と石山さんの千木良・若柳の畑に植付けをしました。初日は播種、広い面積なので播種機で等間隔に 2 粒ずつ種を播き、皆で覆土・踏圧していきます。2 日目は防鳥ネット張り、ハトやカラスが入れないよう畑全面にネットを広げ隙間にテグスを縦横無尽に張り巡らします。チームワークで効率よく作業したおかげで、鳥の食害もなくきれいに発芽しました。

7 月から週末は防鳥ネット外し・中耕・土寄せ・除草と管理作業が続き、草子農園サポーターの方々とも親くなりました。8 月 13 日、作業後にサポーターやつくいやさいの仲間が集まり自慢の野菜や食材を持ち寄ってバーベキューをしました。もぎたての枝豆・手製塩麴で味付けした焼肉・畑のハーブを使ったパスタ等、たくさんの料理に舌鼓を打ち、夜は花火を楽しみました。畑では大豆の開花真っ盛り、秋の収穫が楽しみです。

ちなみに 1 月からお手伝いしてきた内郷の tetote farm ですが、富岡さんの転居で 11 月下旬地主に返すことになり、8 月から私の肩書は宮本茶園となりました。



播種



発芽



土寄せ

・ミレット 藤野雑穀栽培講座

前号でお知らせした雑穀栽培講座は、案内チラシを藤野周辺の公共施設や雑穀街道関連施設で配布し、メルマガ・Facebook 等インターネットで広く参加者を募集しました。申し込みしてくださった参加者は 7 名、西原の中川さんの指導で 5 月 28 日、タカキビ・アワ・キビ・ヒエ・キヌア・アマランサスの播種をしました。雑穀の成長が遅れ 6 月 11 日に予定した第 2 回講座は 25 日に延期、残念な事に雨天中止となりました。講師の植物研究家池竹則夫さんは豊富な知識と気さくな人柄で藤野の人気者、(仮)竹パウダープロジェクトの中心メンバーで私も世話になっています。池竹さんには 9 月 24 日(日)の第 4 回講座で「穀物と雑草」についてお話いただけます。7 月 9 日の第 3 回講座では中川さんとアワ・キビ・キヌア・アマランサスの間引き・土寄せ、タカキビ・ヒエの定植を行い、傾斜地でのクワの扱い方を教わりました。

7 月 14 日、篠原シンポジウムに参加した西原のメンバーの呼びかけで雑穀街道交流会が開かれました。てくてくてくで昼食をとりながら情報交換、藤野で取り組まれている日連と駅前の雑穀畑を視察しました。短い時間でしたが雑穀街道のつながりを実感できた有意義な会でした。中川さんの指導で管理作業を行っています。竹チップの八米竹林で冬に切った竹枝で「やた」という支柱を作り畝間に立て、防鳥ネットを張り巡らしました。先日の台風 5 号の暴風雨で倒れた株はなく順調に出穂しているので、鳥害が防げれば今年は豊作が望めそうです。



土寄せ



八米で作った「やた」



防鳥ネットを張った駅前畑